

伊勢崎市は特例校として、英語教育の充実に力を入れて取り組んでいます。英語科の新設。全学年週2時間の授業を実践しています。

1 令和7年度の学校評価におけるアンケート結果

- ①教職員へのアンケート「児童が体験的に英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを感じることができるようにしていますか」という質問に対して、「している」「どちらかといえばしている」と回答した割合は、90%以上でした。
- ②児童へのアンケート「英語の授業では、英語の発音やリズムに慣れ、友達と英語で伝え合うのが楽しいですか」という質問に対して、「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と回答した割合は、90%でした。
- ③児童の「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と回答する割合を80%以上にするという学校の目標は達成されています。

2 学校評価アンケート結果を受けての指導方針

- ①伊勢崎市の共通プログラムに基づき、イングリッシュサポーターや外国語指導助手（ALT）を効果的に活用し、担任が主導して達成感や成就感を感じることができるよう指導の工夫に努めていきます。
- ②場面設定の工夫をし、イングリッシュサポーターや外国語指導助手（ALT）による英語の音声に直接触れたり、デジタル教材等で視覚的支援を取り入れたりして児童が相手意識をもてるようにします。

3 令和8年度の編成方針等

- ◎ 市共通の展開例を有効活用すると共に、外国語指導助手（ALT）やイングリッシュサポーターのネイティブな音声や英語表現に多く触れさせながら、英語でコミュニケーションをする楽しさや自分の伝えたい内容が表現できたという達成感・成就感が得られる指導の工夫に努めます。
- ①児童が英語を用いてコミュニケーションを図り、その楽しさを味わえる学習活動を図ります。
- ②自分の言葉で伝えたいことを表現させ、相手に伝えることができたという達成感を持たせられるように、児童の興味・関心を生かした内容のコミュニケーション活動を工夫します。
- ③児童が外国の文化や生活に興味・関心が持てるように、教室内を中心に環境整備を行います。
- ④モジュールプログラム実施に伴い、指導方法の周知と担任の英語力向上に努めます。